

特集

「精神科救急」最前線!

宇治おうばく病院は、京都で最も精神科救急の入院受け入れ実績が豊富な医療機関です。

それは精神科医療の質の高さの反映でもあるでしょう。

当院の精神科救急医療は、どんな特色を持っているのか?

医師・看護師・精神保健福祉士という異なる立場で携わる3人の話から、
浮き彫りにしてみましょう。



黒木 麻子 (くろぎ あさこ)

看護師

大月 祥宏 (おおつき よしひろ)

精神科医師

田之口 智子 (たのぐち ともこ)

精神保健福祉士

最新の治療も積極的に導入

おうばく病院は、精神科救急の入院受け入れが大変多いのですね。

大月 はい。ひと月に平均八〇〜九〇人くらいは受け入れていきますから。京都の他の病院では、スタッフ体制の面から、病床数からも、そこまでの受け入れは難しいと思います。

当院には二つの精神科救急病棟と、一つの精神科急性期治療病棟があります。救急病棟は「スーパー救急病棟」と呼ばれるもので、それぞれ五三床、四九床あります。また、もう一つの急性期治療病棟は六〇床あります。

Q 「スーパー救急病棟」と「急性期治療病棟」の違いとは?

黒木 どちらも精神科の救急病棟です。ただ、新規入院の方の割合などによって区別されています。

大月 「スーパー救急病棟」に区分されるには、人員配置・設備・医療水準に厳しい基準があるんです。当院はそれを二病棟持っています。

Q 関連した話題ですが、「スーパー救急病棟」の要件の一つに、「クロザリル」導入が新たに加えられることになったとか。

大月 ええ。「クロザリル」は難治性の統合失調症に大きな効果がある薬ですが、白血球減少という副作用が起きることがあって、使い方が難しい面があります。そのため、処方できる病院や医師が限られていて、当院もその一つなのです。当院でクロザリルを処方した患者さんは、現時点までで四二人いらっしゃいます。治療実績が豊富な病院の一つであると言えるでしょう。